

大学執行部セッション

8月29日（火） 13:30-15:00 大会場A（4階）

日本の学術を支えるのは誰か？—研究力強化と産学官連携

研究全体を、分野を問わず均質に支える基盤的経費が漸減し、競争的資金による研究の選択と集中投資が進んでいる。

この傾向は長期に亘ることが予想されるが、これは、従来からのデュアル・サポート（基盤的経費により、長期的な視点から多様な教育・研究の基盤を確保するとともに、競争的資金等により、教育・研究活動の革新・高度化・拠点化を図る二正面作戦的サポート）のバランスを崩す。

研究者の裁量に任された用途を問わない資金が、研究者の自由な発想に基づく萌芽的あるいは挑戦的な研究を支えてきた側面は否めず、こうした自由度の制限が及ぼす影響は、現在、論文数の減少といった形で少しずつ顕ようになってきている。

研究力、特に「基礎科学力」の先細りにつながり兼ねないこうした状況を打開するために、国は、大学は、どのような方策を立て、実行していく必要があるのか？ またそのなかで、URA にどのような役割を果たすことを期待するのか？

本セッションでは、こうした問いのもと、まず文部科学省から、先ごろ公刊された平成29年度 科学技術白書でもフォーカスされている、『オープンイノベーション』を中心に科学技術の置かれた状況の分析、設定課題と打開策、そのなかで特に、これまでにない産学官連携を構築するにあたってURAに寄せる期待等について、話題の提供を受ける。

次いで、全国に先駆けて進められた事例に、新たな産学官連携と研究力強化のあり方を学ぶ。具体的には、新たな連携の制度的な背景、実効性とそれによって見込まれる成果、研究力に及ぼす影響、企業・大学・行政の三者に求められる変化や共有すべき意識・土壌、こうした取り組みを進めるなかで、URAがどのような役割を果たし得るか等を考察する。

モデレーター



山崎 光悦：金沢大学 学長
リサーチ・アドミニストレーター(RA)協議会 会長

1976年金沢大学大学院工学研究科修士課程修了。1976年金沢大学工学部助手、1985年助教授、1994年教授。1989年～1990年文部省在学研究員（カリフォルニア大学サンタバーバラ校）。2010年～2012年理工研究域長・理工学域長。2012年理事（研究・国際担当）・副学長。2014年より現職。専門分野は設計工学、計算力学、材料力学など。

パネリスト

村瀬 剛太：文部科学省 科学技術・学術政策局
産業連携・地域支援課 大学技術移転推進室 室長

平成7年に文部省入省。高等教育局視学官、神戸大学理事補佐、大臣官房政策課企画官等を経て、本年4月より現職。

西尾 章治郎：大阪大学 総長

1975年京都大学工学部卒業。1980年京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了(工学博士)。専門分野はデータ工学。1992年大阪大学工学部教授、1996年同大学院情報科学研究科教授。大阪大学サイバーメディアセンター長(初代)、大阪大学大学院情報科学研究科長、同理事・副学長などを歴任し、2015年8月より現職。

文部科学省科学技術・学術審議会委員、総務省情報通信審議会委員(会長代理)など政府関係等の委員を多数務める。

2011年紫綬褒章、2016年文化功労者。

廣明 秀一：名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部
副本部長／教授(総長補佐)

平成4年 大阪大学大学院薬学研究科博士課程修了(博士(薬学))。以後、外資系製薬企業、経産省系研究機関を経て、平成13年横浜市立大学助教授、平成19年神戸大学医学部特命教授、平成23年名古屋大学理学研究科教授、平成24年同創薬科学研究科教授(本務)。平成27年より兼務にて産連本部の副本部長を務める。

野地 澄晴：徳島大学 学長

1948年生まれ。1992年から徳島大学教授(工学部・生物工学科、専門：発生と再生生物学)、2012年徳島大学理事(研究担当)、2016年から現職。一般社団法人大学支援機構(<http://universityhub.or.jp/>)を設立。クラウドファンディング、クラウドソーシング、大学支援店(オンラインショップ(予定))の各システム(おつくる<https://otsucle.jp/>)を開設。